

図書館100年のあゆみ

令和6年(2024年)9月、草加町立草加図書館が建てられてから100年を迎えます。図書館は時代の変化とともに、情報の入手・趣味や教養・生涯学習の場として皆様に親しまれてきました。図書館文化を次の100年につなげていくため、これからも皆様に寄り添ったサービスを提供してまいります。今回の特集では、図書館のあゆみを振り返りながら、図書館の便利な使い方やイベント情報などをご紹介します。

☎中央図書館 946-3000 ☎944-3800



図書館法に基づき「草加市立図書館設置及び管理条例」を施行し、「草加市立草加図書館」が始動した。

大正13年 (1924) 当時の蔵書は約700冊
9月、当時の草加町に図書館創立。位置は現在の草加小内、木造二階建て、広さは二十坪程度であった。

昭和33年 (1958) 11月1日市制施行 人口 3万4,878人

昭和42年 (1967) 当時の蔵書は約500冊
中央公民館の会議室を「図書室」に改造し、9月から図書の貸出しを開始。県立図書館の移動図書館車「むさしの号」も月1回、市内を巡回していた。

昭和44年 (1969) 当時の蔵書は約2,100冊

昭和50年 (1975) 当時の蔵書は約34,500冊

昭和53年 (1978) 人口 約15万9千人
移動図書館車「まつかぜ号」が巡回開始。2500冊の本を積載し、図書館が遠い地域の市民の情報源となっていた。

平成12年 (2000) 当時の蔵書は約328,000冊
情報化社会に対応するため松原に「草加市立中央図書館」を開館。貸出方法がブラウン方式から、電算システムへ変更され、公民館・文化センターとのネットワークが整備された。

平成13年 (2001) 人口 約22万7千人

平成15年 (2003) 草加市電子図書館開設

令和2年 (2020) 市内小学校内に中央図書館サービスコーナー開設

令和4年 (2022) 「令和4年度子供の読書活動優秀実践図書館」文部科学大臣表彰を受賞

令和6年 (2024) 人口 約25万1千人
地域の情報拠点として、現在も多くの市民に愛されている。

撮影協力:草加・草加東・草加西・草加南高校の図書委員の皆さん



草加市長 山川 百合子

祝 草加町立図書館100周年

草加のまちに町立の図書館ができたのは今から100年前。時は大正13年9月、場所は草加小学校の正門近くのプールの向かいで、現在の給食室のあたり。木造2階建ての建物でした。蔵書は約700冊で、図書購入費として当時、町の予算に百六拾円(160円)が計上された記録があります。「こどもたちや多くの方が本に親しめるように」と奔走された先人の“思い”

は、100年の時を経て今に受け継がれています。今年の2月末を期限として実施した市立図書館の児童書購入のためのクラウドファンディングには158万2千円(約160万円)のご寄附が寄せられ、およそ700冊の書籍を購入することができました。金額(160)も冊数(700)も図書館が設置された当時と今が重なって100周年をお祝いしてくれているかのようです。読書離れが進んでいるとも言われる現

代ですが、本の中には限りのない世界が広がっています。100周年の今年、是非、図書館に足を運んでいただき、「読書って楽しい!」「図書館って面白い!」と感じて頂ければ嬉しいです。

草加小学校のプールの向かいにあった様子などはこちらをご覧ください。>>>

